



ながま

青森県立大湊高等学校 東京同窓会

第36号

平成28年度
2016年
6月25日発行

Contents:	P2 近況雑感・歌舞伎の楽しみ方	P3 東京同窓会この一年・ふるさとの本紹介	
	P4～5 下北逍遙(滝・巨木・奇岩)	P6～7 東京生活アンケート総集編	P8 同期会便り

大湊高校は、平成30年(2018)に70周年の節目を迎えます。昭和23年(1948)に定時制の課程普通科として産声をあげた本校には、脇野沢分校、川内分校という兄弟もあり、定時制の課程や普通科と共に木材工芸科や家政科を併設した時期もありました。しかし、脇野沢分校は昭和62年に閉校になり、川内分校は昭和53年に独立校として川内高校全日制的課程普通科になりましたが、平成20年度から校舎化され大湊高校川内校舎となっています。平成14年からは総合学科となり現在に至っています。

「開校70周年にむけて」

校長 福士 広司



今年、耐久遠足が50回目の記念大会を迎えます。20周年記念の一環として計画された第1回耐久遠足は、昭和42年9月14日の深夜11時に開始されました。男子は学校から城ヶ沢、角違、戸沢、田野沢、川内、宿野部小中学校を折り返す50Km、女子は川内小学校を折り返す35Kmで行われました。当時の記録を紐解くと男子の先頭は陸上競技部に所属する生徒で4時間32分でゴールしました。女子も5時間40分でゴールしたと記録にあります。男子の多くは、8～9時間、女子も6～7時間でゴールしたようですが、全校生徒816人中、参加者は691人(参加率84.6%)、完歩者は、577人(完歩率83.5%)とあるように114人の落後者がありました。夜間に行われたことに批判もあり、翌年からは日中に距離を短くし、釜臥山、恐山を周回するコースになりました。これまで多くの大高生が参加してきた行事ですが、今年度は50周年を記念して、同窓生にも参加を呼びかけます。昨年初めて参加し、やっと完歩することができましたが今年も参加したいと考えています。往年の健脚自慢がどのような走りをしてくれたのか、一緒に見た釜臥山展望台からの眺めがどうだったのか、無事完歩できたのか、東京同窓会でご報告できることを楽しみにしております。

疑問とその追及

会長 齊藤 忠志 (第9期)



小学校卒業時に、先生方にサインを戴くことが当時は恒例になっていた。ある若い先生にお願いしたら「何事にも疑問を持ってそしてそれを解く努力をせよ」といった趣旨の言葉を戴いた。その先生のオリジナルでないかもしれないが、いまでも頭の片隅に残っている。

周りには疑問はあまりにも多くある。そのなかで関心を持ち追求するのは、知っておかないと生活や人間関係上支障のあるもの、面白そうで話題としてマスコミでも

よく取りあげられるもの、容易にわかるものなどに限定されてくる。ある一つの疑問(あるいは関心事)といった方が適切かもしれない)を考えるためにさらにまたいくつもの疑問が生じてくることも多い。

最近の身近な関心事、といっても数多くあるが、ここでは構造的問題を発生させる二つを挙げたい。一つは人口減少問題だ。わが国はすでに人口減少時代に入っている。出生率が下がり長寿化しているから高齢化問題でもある。この影響はすでに各所に見られる。たとえば学校の併合、空き家の増大、商店数の減少、地方都市の衰退(将来は消滅)、国内経済・産業全体の衰退、医療費の高騰等々。むつ市はどうなるのだろうか。母校の周辺も閑散としている感じがする。長いスパンで考え基礎的で地道な対策が求められるだろう。ついでに挙げれば同窓会の将来はどうなるのだろうか。これは人口減少問題

よりも先輩、後輩の「絆」が薄くなったことが原因とも考えられる。

もう一つは、IT(情報技術)の進歩である。どの分野で、どのような形で、どのような変化(革新)をもたらすのだろうか。たとえば最近ネット通販の伸長が著しい。大手小売業の多くは有店舗、無店舗のすべてのチャネルで販売する「オムニチャネル」という政策を進めている。注文当日配送の割合も高まり、生鮮食品の取扱も進められようとしている。流通業者、生産業者、サービス業者も参入している。AI(人工知能)の進歩とともに、無人航空機(ドローン)の活用、自動運転自動車時代の到来と、近い将来には別次元の世の中がやっつきそうである。

疑問を持ちその追及をはじめたらいくら時間があっても足りない、頭が老化する暇などない。小学校の若い先生には良い言葉を頂いたと感謝している。

語拙見管

歌集「いもうと」をいたいた。オビに「特定失踪者の妹に捧げる、姉からの家族詠」とある。著者は29号の「恩師健在」に登場していただいた天内みどり先生。いもうと・引揚げ・草木染め・折々のうた・おとうとと五つの章に全部で515首が収められている。これらが短歌として優れているのかどうかは門外漢の私にはわからないが、激しさと穏やかさの振幅の大きい語り口で、具体的・直接的に詠まれている内容―あとがきの言葉を引用すれば「生の証」は一気に最後まで読ませる圧倒的な力がある。中程119ページの

久びさに父と二人の夕餉なり
ふるふき大根の湯気あたたかき
にホツとする。IV章に出てくる「ペルリンの壁」に初めて出てくる「ババが東独だったことなど思い出したりもした。読み終えて頭に浮かんだ言葉は家族愛でした。◆東京都民になって今年で五十年。ふるさととは帰る所から行く所になった。ふるさとといったら祭りバカの僕にはやはりねぶたであり秋祭りなのだが、自分なりの言葉で言えば「自分の祭り」だったのが今では「よその祭り」になってしまった。田圃の水路で毎年摘んでいた水セリ、直径20cmもある餡子の入った田植え餅、菊の葉の天ぷら、年の瀬に自分で搗いていたうる米餅等々：食べ物に限らないが、ふるさとを思い出させるものは財産である。◆この「ながま」の編集も含め同窓会での自分の役割は終わったような気がするので、そろそろ…と想っている昨今です。(Y.T.)

近況雑感

『寒立馬』命名の先生逝く

顧問 佐々木彦藏(第7期)

二月半ば、中学時代の恩師岩佐勉先生の訃報に接し、十九日告別式に参列した。

JR新浦安駅から京葉、武蔵野、常磐、成田線と乗り継いで木下(きおろし)駅で下車。そこからバスで斎場に向かった。

三十分程で緑豊かな田園風景の中にある印西斎場に着いた。

斎場の入り口を入ったら、そこに、故人のお別れの言葉が掲げてあった。

『感謝の気持ち』

私の生涯において

皆様との出会いひとつひとつが

かけがえのない宝物です

こうやって皆様に

最後のお別れができたことを大変嬉しく思います

本日はありがとうございました

岩佐 勉 と。

その右側に掛け軸が掲げてあって、そこには

『東雲にいさみ 嘶く寒立馬注 つくしが原の 嵐ものかわ』と書かれてあった。



式場に入ると、祭壇の右側、遺族席の筆頭に喪主の昭子(てるこ)夫人が座っておられ、すぐ目が合ったので、側に行きお悔みを申し上げた。

何年振りかでお会いしたが、きれいな白髪で「彦藏さん、遠い所を…」と、はっきりとしたお声を頂いた。

★

告別式は、浄土宗のお坊さんの読経で形どおり進められ、初七日法要まで営まれた。

すべてが終わり、参列者がお棺に沢山のお花を入れ、先生に最後のお別れをした。

一番印象に残ったのは、最後にお棺の蓋を閉める直前に、昭子夫人が岩佐先生の額に右手を当て、何か話しかけ(当方には聞こえず)じっと祈るような、最後のお別れをしている場面だった。涙をこらえることができなかった。

★

六十五年前の昭和二十六年春、我々が大湊中学校を卒業した直後に、校内一の美人教師で、男子生徒の憧れの的であった昭子先生と岩佐先生が結婚するという、生徒の誰もが前兆をキャッチできなかった衝撃的なニュースが流れたことを記憶している。



在りし日の岩佐勉先生・昭子夫人と共に(平成19年4月・大湊上町自宅の書斎にて)

六十数年に及ぶ先生ご夫妻の営みが、どのようなものであったかを知る由もないが、長年連れ添った伴侶との別れは、いつかは誰にでも訪れるもの。告別式での一連の流れを拝見し、改めてそのことに思いが及んだ。

(28・5・25記)

(注)「寒立馬」

かつては「野放馬」と呼ばれていたが、昭和四十五年(1974)に尻屋小中学校の岩佐勉校長が年頭の書き初め会で「東雲に・・・」と詠んで以来、「寒立馬」と呼ぶようになった。

(ウイキペディア「抜粋」)

寄稿 歌舞伎の楽しみ方あれこれ

堺勝彦(大湊中・青森高校卒、大高12期相当)

歌舞伎座を中心に新橋演舞場、三宅坂上の国立劇場が私の観劇の守備範囲で毎月小屋通いを続けて14年になります。折々に季節の移ろいを感じながら銀ブラ、千鳥ヶ淵の散策を楽しむのも習いとなりました。これは観劇の余録です。

ここ数年の銀座界隈の変貌振りには目を見張るばかりです。大勢の外国人が闊歩し外国語が飛び交いオリンピックに向けさらに国際化していくのでしょうか。

観劇の前後には新聞の劇評欄に目を通すことも楽しみです。道標となるもので目から鱗が落ちることも度々とても重宝です。つくづく歌舞伎の奥深さ、広がりの大さに感じ入ります。

バラエティの権化で楽しみを広げる要素がたくさんあります。最良の役者、好みの演目があれば更に楽しみを大きく膨らませてくれます。人それぞれ感じるままに歌舞伎を受け入れれば良いと最近思うようになりました。芝居小屋は不思議な空間でただ身をおくだけで身も心も浮き立ってきます。私にとって玉手箱のような存在です。廻り舞台、せり、花道等人を楽しませ驚かせる装置がたくさんあり、



堺勝彦さん 平成28年2月・日枝神社にて

これらを工夫した江戸の先人達の知恵には敬服するばかりです。

代々途切れることなく継承されてきた幾多の芸がこの空間を通して役者と観客を結びつけ現代まで息づいているのが歌舞伎です。その長い歴史に思いを馳せるとこの空間が愛おしくなります。

浮世絵に江戸の町民が数人で酒を飲みながら芝居を楽しんでいる様子が生き生きと表現されています。彼らも泣き笑いあるいは喝采し芝居に共感を覚えたのでしょうか。かの時代の彼らがとても身近に感じられます。今歌舞伎座の正面玄関に染め幕を廻らした櫓が揚がっています。舞台には定式幕これらは江戸の昔の名残で

幕府公認の芝居小屋の印です。数々の襲名披露が執り行われてきたのも正にこの空間においてです。初御目見得、初舞台と歌舞伎の世界に生を受けた幼子が一步を踏み出すのもこの舞台です。11月の海老蔵の長男の初御目見え、僅か二歳で口上を述べました。観客のどよめきとともに実に心に残る場面でした。彼も遠い先、代々の大名跡を受け継いで行くことでしょう。

(平成27年12月記)

東京同窓会この一年

27年7月18日

- * 理事会・永田町「シーボニア」
- * 出席8名
- * 総会総括(次年度に向けての改善点など)・会計報告・年会費納入者等への総会資料送付等

27年8月29日

- * 東京同窓会大湊倶楽部総会
- * 事務局(むつ市大湊上町・畑中邸にて開催)



参加者6名(東京より4名・現地より2名)

27年8月25日

- * 東奥日報に「なかま」35号の記事が掲載される。



大湊駅周辺を題材にした「なかま」35号を取り上げた記事が掲載された東奥日報の紙面

古里の駅懐かしの姿

大湊高校 機関紙に写真特集
古里の駅懐かしの姿
大湊駅周辺の古い写真が掲載された特集ページ

27年8月29日

- * 納涼会・東京湾クルージング
- * 参加9名



27年9月

- * 35号の「下北逍遙」が開業九十四周年記念企画の一貫として大湊駅に9月以降(後に34号共々)半年以上の長期にわたり掲示された。



27年9月27日

- * 高窓連バーベキュー大会
- * 国立昭和記念公園
- * 参加10名。



27年12月18日

- * 役員有志忘年会
- * 市ヶ谷「つだがわ」
- * 参加10名



東京同窓会員に加え、他校同窓会員や大湊から駆け付けた参加者等総勢19名で盛大に行われた。

28年3月11日

- * 事務局会議・畑中顧問邸
- * 出席6名
- * 「なかま36号」編集会議
- * 記事内容・紙面検討・原稿依頼
- * 確認・広告確認

28年4月3日

- * 花見の会
- * 江東区・東京都立猿江恩賜公園
- * 役員・有志7名参加



上：花見の会 下：理事会終了後

28年4月9日

- * 理事会・市ヶ谷「つ다가わ」
- * 出席15名
- * 総会までの準備事項及び日程確認



東京同窓会の精鋭達
齊藤会長と宮下市長・大学の先輩と後輩

28年5月1日

- * むつ市首都圏PR事業「むつ市のうまいは日本一!! in 亀戸」むつとの遭遇」支援
- * 支援活動参加6名

28年5月14日

- * 理事会・畑中顧問邸
- * 出席15名
- * 総会案内状発送業務・総会準備の役割分担・当日配布する資料及び担当者の確認・二次会会場等確認・役員人事等
- * 27年度会計監査(中嶋皓夫・大田功監事)

28年6月11日

- * 理事会・市ヶ谷「つ다가わ」
- * 出席15名
- * 総会の最終打合せ。当日の役割分担、配布物等用意するもの及び担当の確認等

28年6月25日

- * 28年度定期総会
- * グランドヒル市ヶ谷「珊瑚の間」
- * 新卒者激励会・懇親会
- * 機関紙「なかま」36号発行

ふるさとの本紹介

「うそりの風」創刊号

「うそり」が廃刊となり、今後、下北を語り継ぐ機会を失ってしまうため、仲間が集まり、「下北の歴史と文化を語る会」の意志を引き継ぎ、新たな「うそりの風」を発刊し、このたび、会誌「うそりの風」を発刊することができました。

会誌「うそりの風」の発刊により、下北の歴史を明らかにし、学ぶこと、来る、下北の希望ある未来を考察できるようにすることを念願するものである。――巻頭言より――

A4版・72ページ 千円(税込)
発行・問い合わせ先
うそりの風の会 事務局
〒035-10076
青森県むつ市旭町10番33号 工藤和彦方
電話&FAX 0175-344-9786



「下北地域史話」

三浦順一郎 著

紙碑とは、世に知られていない物事や世に埋もれた人の生涯・業績などを書いた文章をさす。地域史を研究する者の役目は、難解な文章を書くことではない。無名の人物の活動に光をあて、分りやすく紹介することにある。紙碑を残すことである。――はじめより――

歴史を軽視してはならない。歴史から学ぶ姿勢が大事だ。下北の歴史から学ぶことがある。古文書や開取調査で綴る、下北の歴史(海運・斗南藩)・考古・民俗・漁業、芸能等について23編の論考。一オビよりA5版・317ページ
千七百円(税込)
発行・三浦順一郎 自費出版

下北の自然を巡る ・奇岩・花・山 ☆☆☆

鍵をあけなければ中の宝を見ることは出来ません。その
が19期卒業生で城ヶ沢在住・瀬川威さん。
供していただきました。下北の自然の極く一部でしょう
「りの風」に掲載されたものですが、未発表分は今後も継
目にして初めて「全部が下北の今」の登場です。
ルの写真が見れる掲載誌を示しています)

川の支流・仁部沢にかかって
山中に入った時は終始不安
のだが、このような滝に出会っ
て楽しい気分になる。新緑
魔の音が辺りに響いていた。



まぼろしの滝

◆薬研・まぼろしの滝
川上流の支流・長滝沢にか
なので「長滝」が正しい呼称で
では「まぼろしの滝」と呼ばれ
はかなりあるが、残念ながら全
てできない。木々の間にゆっく
、まさに「まぼろし」である。(う



ヨウラク
自生するツツジとしては、
ヨウラクのほかにはヤマツツ
・ヤシオツツジ、コメツツ
ジ、ホツツジがある。恐山
ツツジ以外、釜臥山で
察することができる。

●オオカメノキ
山の木々が動き始める5月、ブナな
どの広葉樹林を歩くとこの純白な花
が目飛び込んでくる。実は赤くなり、
ガマズミ(下北ではジョミ)に似
るが、アジサイと同じく装飾花をつけ
るので異なる。ムシカリともいう。



▲新日本百名山 大尽山



むつ市に位置し、標高624m。恐
山から見ると三角の形をしている。
平成16年、熟年者向けの山として
NHK登山講師岩崎元郎の新日本
百名山に選定されている。360度
の展望が楽しめる。



大尽山頂上から見た宇曾利山湖と
恐山。宇曾利山湖周辺に広がる
「恐山山地森林生態系保護地域(ヒ
バとブナの混交林)」も一目瞭然と
ある。

▲東北百名山 縫道石山



佐井村福浦に位置し、標高624
m。北海道、津軽半島などが眺望
できる。山頂の岩に付着するオオ
ウラヒダイワタケ(地衣類)は、氷河
時代の生き物で「生きた化石」と言
われる。南に7km離れた縫道石と
ともに特殊植物群落として国の天然
記念物に指定されている。



▲縫道石

縫道石山と同じく岩峰である。こ
の岩にもオオウラヒダイワタケが
付着している。標高≒590m。登山道
はなくアプローチは難しい。

★奇岩・仏ヶ浦の一ツ仏



仏ヶ浦のさまざまな奇岩
の中でひときわ異彩を
放っているのが一ツ仏で
ある。矢じりのような形を
した岩が天を突き刺すよ
うに立っている姿は、まさ
に「神のわざ鬼の手づく
り」である。

▼巨木



奥戸・巨木の森の
シナノキ



大畑・曾古部山の
金剛ヒバ



川内・セツ家戸の
二本スギ



恐山の百面ブナ



恐山の千手観音ブナ

恐山には巨木「百面ブナ、
千手観音ブナ」に加え、
奇岩「鬼石」もあります。



釜臥山の胎内落岩



易国間管ノ尻の
立石大明神



城ヶ沢の天狗岩



三途の川の番人 恐山の鬼石

国土地理院・地図記号：滝：滝とは流水が急激に落下する場所をいいます。ふつうは高さが5メートル以上で、いつも水が流れている有名な滝や好目標となる滝を表示しています。――瀬川さんによれば、下北半島の滝数は地形図上は40位だが、実際は約200と推定され、そのうち150は確認しているということである。



引廻沢の滝

◆易国間・引廻沢の滝

易国間川最大の支流・小川目沢を遡上すると立石沢と引廻沢とに分岐するが、この滝は引廻沢の会合にかかっている。深山幽谷の佇まいの中で櫛状にゆっくりと流れ落ちる様は実に雄大である。(うそり44号)

◆佐井・今滝

下北半島の西海岸で、平館海峡に落ちる滝が三つある。仏ヶ浦の糸滝、佐井村南端の黒滝、それと黒滝から北1.6kmにある今滝で、いずれも急崖な海岸線に位置している。(うそり45号)



今滝

◆易国間立石沢・玉すだれの滝

引廻沢の滝を過ぎ、立石沢をさらに遡上すると、源頭部にこの滝が現われる。幾筋にも落ちる落水が印象的である。(うそり47号)



銀滝

◆川内・銀滝

この滝は川内・湯野川越にある砥石川の支流・銀滝沢にかかっている。大きな断崖が沢を塞いでおり、その中心から落ちる一条の滝が印象的である。形状はほぼ直瀑、高さは18 m ある。水量の多少によって姿が変幻する滝であるが、それぞれに趣がある。(うそり44号)



玉すだれの滝

◆大畑・赤川不動の滝

江戸時代の紀行家・菅江真澄(すがえますみ)はこの滝を訪ねて「すいさう(水晶)のすだれをかけたらむがごとくおちて」とその美しさを絶賛している。そして、麓にある黒森神社の不動尊がこの滝にあって奥の院になっているとも書き残している。(うそり44号)



赤川不動の滝

◆薬研・メルヘン滝

薬研・紅葉橋から恐山方向に50mほど進むと右手に駐車スペースがあるが、この路肩に立つと下から滝音が聞こえ、木々の間にその姿を目にすることができる。洋風の建物は旧営林署の発電施設で、周りの自然と調和し、メルヘンチックな雰囲気を醸し出している。(うそり45号)



メルヘン滝

●ヒメホテイラン

ヒメホテイランはヒバ林下に咲く可憐で魅惑的な花である。近年減少し、絶滅危惧種に指定されている。草丈10センチ程度、ヒバ林の妖精ともいわれる。



◎この2種は絶滅危惧種のため地図に場所を示しておりません。もし見つけても花を愛でるか、写真撮影に留め、絶対に採取しないで下さい。

●ユキワリソウ

ユキワリソウは下北の一部に自生するサクラソウ科の植物である。雪解け後、岩場に咲くピンクの姿が健気である。草丈10センチ程度、絶滅危惧種。



●シラネアオイ

5月、釜臥山スキー場第1リフトの下側斜面はこの花で埋め尽くされる。ここから眼下をながめると、芦崎湾のまばゆいばかりの景色が広がっていて、ふるさとの素晴らしさ実感することができる。大湊人必見の場所である。



●ウラジロ

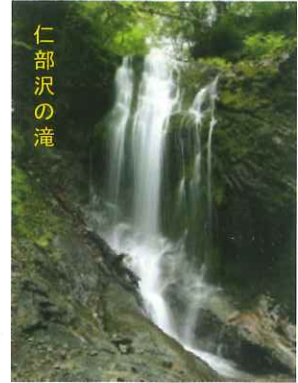
下北半島にこのウラジロジ、ムラサキジ、イソツツで見られるイはこれらを種



下北逍遙：
☆☆ 滝・巨木

下北は自然の宝庫と言われますが、宝庫は鍵をあげる地道な活動を長年続けているの。今回はその瀬川さんより写真及び説明を提示し、ほとんどは地方研究誌「うそり」や「うそり」で発表するとの事です。「下北逍遙」3区(解説文末尾の括弧内は大きいサイズや別アング

◆薬研・仁部沢の滝



仁部沢の滝

この滝は大畑にある。奥深いがつきまどうもたときは一転の中、爽快な(うそり47号)

薬研・うぐいがかかっている滝があるが、地元でている。落差は顔を見ることばり落ちる様はそり50号)



「東京生活」アンケート 三十年 総集編 最終回

東京同窓会では毎年大湊高校を卒業して進学・就職のため上京した同窓会新会員の皆さんに初めての東京(首都圏)での生活について、昭和六十一年から昨年平成二十七年まで(なにか6号から35号まで)三十年間同じ10項目の質問でアンケートを行いました。最少回答23号の3名から最多11号の18名まで、のべ271名の方々に回答をいただきました。回答していただいた方々には感謝いたします。ありがとうございました。総集編として、三十回の回答の中からいくつかをピックアップして掲載し、「東京生活」アンケートの締切りとします。

①東京(首都圏)で生活してみても一番ビックリしたことは何ですか?

■初めてゴキブリを見た時は、飛び上がった。(7号) ■何かにとりつかれたように、ヴァレンティノのバッグを持っている人が多かったこと。五月になって毛皮のコートを着ているオバサンもいたこと。(9号) ■水がおいしくない。人がたくさんいて、どこに行っても人だらけ。事件や事故が多い。浮浪者がたくさんいる。(11号) ■バス、電車は待たなくてもよいし、バスの最終だって11時ころ。やっぱり水はまずいし、お刺身も高い割においしくない。しかし、一番びっくりしたのは「意外と世の中狭いのだ」ということ。それから、ホントに星は見えない。夜でも空は灰色だ。(14号) ■窒息死状態の満員電車。そんな状態でも新聞をよんでいるサラ

リーマン。(14号) ■お昼代がかかりすぎる。(15号) ■みんな歩くのが早いと思った。(16号) ■髪の色(赤・黄・緑・金・白・茶・青・超黒)とキリスト教の勧誘。(17号) ■バス停では、みんながきちんと一列に並ぶコト(17号) ■TVチャンネルが全く違って、未だに覚えられない。高校生見ると、おっかない位大人くさい。(18号) ■鼻をかんだら、真っ黒い鼻クソが出た。(19号) ■満員なのに、それでも人が乗れる電車。(20号) ■高い。高すぎる。タクシーが高い。カラオケが高い。飲み屋などで高すぎる。家賃も高い。ついでに狭い。(20号) ■歩いていて声をかけられる・浮浪者がいて嫌だ。歩きながら叫んでいる変な人がいる。(22号) ■四月に桜が咲いてたこと。(23号) ■栃木の宇都宮はかなり都会だけど、今住んでるとこは、むつよりいなかでビックリ。(26号) ■ゴミの分別の細かさ。(26号) ■駐車料金(27号) ■美容室のカット料金が、むつ市の3倍だったこと。(28号) ■人が多いということは分かっていたので大丈夫だったけれど、やはり東京にいる人は、優しくないといいか。不親切というか。(30号) ■東京の人は青森全部つがる弁だと思ってること。(30号) ■自転車によけかたがわからない。ど、どうしようってなつて、けつきよく失敗人でもおなじ。よくお互い上げて、けつきよく失敗。むつではちゃんとよければ(31号) ■すぐに金がなくなる。(31号) ■鼻毛の成長速度が急に向上した事。(32号) ■人がぶつかつて来るところ。(34号) ■コンビニで働いているのですが、すごく長い列が一時間くらい続くのにビックリしました。(34号) ■交通量がとても多いです。私の住む街(宇都宮)は「自転車の街」と言われているほど自転車の交通量も盛んです。バス賃が安いことにも驚きました。(35号) ■小学生

②言葉の問題で悩むことはありましたか?

■大湊の言葉はきれいなので、そんなことはありません。(8号) ■私たちは外人じゃない。津軽弁に比べたら(8号) ■アクセントはどうにかありますが、「ゴミを投げる」とか、「こぼす」ことを「まかす」と言ってしまうこと。(10号) ■ありません。言いたい放題ですよ。(11号) ■今まで自分のことを「わい」と言ってきたので、「わたし」と言うのだけがなぜか恥ずかしくて。(14号)



■インターネットが違ふと言われたノインターネット?と聞き返した時なまなまたらしい。(19号) ■友達も地方の人だし、逆になまなま自己紹介したら有名になった。これから絶対「しゃつこい」と言い続けます。(20号) ■心配してたけど、周りの環境で自然に言葉使いも変わるよ。全然悩んでいません。(22号) ■ほとんどないが、たまに通じない言葉がある。(29号)

④毎日の仕事(又は学校)は、きついですか?

■初めの一、二か月は辛いけれど、三か月目には慣れました。(10号) ■いいえ、とっても楽ちんです。その代わり通勤が大変。電車を2回乗り換えして40分。徒歩20分。最低。(求人票と違う。あんまりだ。)(15号) ■ほとんど毎日、朝から夕方まで授業が入っているし、土曜日も学校へ行かなくてはならないので、大変だけど、学校に行けば友達がいるので、結構楽しい。(17号) ■バカみたいにきつい。でも、体を鍛えて給料もらっている訳だから、文句は言えません。(19号) ■一時間の授業時間が長いコトがキツイ。でも友達といると楽しいので、そんな苦痛には感じてません。(22号) ■全くちがう世界にとびこんで、精神的にきつかったけど、今は慣れた。(22号) ■きつとは思わず、これから自分のために頑張りたいという思いが強い。(31号) ■早い時は朝の三時や四時に起きることがあり少し辛いです。上下関係も同業他社より厳しと聞きましたが段々と慣れてきました!(32号) ■朝の8時~17時まで仕事、18時から21時まで学校で、きついです。(34号)

⑥田舎に帰りたいと思ったことがありますか?

■山と緑が見たい。母の料理が食べたい。(7号) ■田舎に電話した後は、特に帰りたいと思います。(9号) ■毎日思っています。数年後には、大湊の勤務になることを目標に毎日頑張っています。(14号) ■ネブタ祭りが近くなると帰りたくなると思います。普段はあまり。(15号) ■ある。地元友達や親と電話している時によく思う。(19号) ■東京に居ると一日の時間の流れがとて早く感じるの、ゆっくりしたい時とかは、田舎に帰りたいなと思います。あと、家に帰つてもごはんを作らなきゃいけないので「田舎に帰ってえ」って思います。(20号) ■GWに友達帰るのがうらやましくて、自分も帰りたいけど、休みがなかった。(21号) ■家から電話がきたり荷物が届いたりすると、やっぱり恋しくなっちゃう。(22号)

⑦大湊高校時代が一番印象に残っていることは何ですか?

■大きな行事以外に、友達と昼休みや登下校の時おしゃべりしたこと。が、とてもなつかしく、一番思い出します。(8号) ■二年生のとき「彼女」ができたこと。(12号) ■春休み、「バイト」しているのが見付かって野坂先生に木刀で(軽く)たたかれたこと。ハッキリ言つて痛かつたし、怖かつた。けど良かったと思う、思い出ができて、先生には天国で元気に頑張つて欲しいです。(13号) ■停学、○○会。(15号) ■反抗していた日々。今になればする人がいなくて寂しい。(15号) ■クラスメイトや仲良しの友達と過ごせたこと。(17号) ■ココロのCMに出たこと。(20号) ■高校生のころは、文化祭と

③上京後、クラスメイトに何回会いましたか? ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

同期会便り

古稀記念「同期生の集い」

富澤千里(第16期)

昨年十一月七日、むつ市田名部本町の「はねやホテル」で、大湊中学校昭和三十六年三月卒業、大湊高校昭和三十九年三月卒業の同期生の「古稀」を祝う同期生の集いが開催された。平均寿命が女性八十六歳、男性八十歳を超えた昨今、必ずしも齢七十をもって「古来稀なり」とは言えなくなっているかも知れないものの、人生の節目の年齢を迎えられたことを共に喜びあった。県外からの十七名を含め、五十四名の参加者は、時間を忘れて尽きない想い出話を花を咲かせた。

関東地区の在住者を中心に続けている同期生の集い「安堵会」を今年も四月二日(土)、桜の盛りがほんの少し過ぎていた外堀に面した私学会館「アルカディア市ヶ谷」で開いた。参加十九名の中には仙台市や山形県酒田市からの初参加者もあり、あつと言う間の二時間半であった。今後は郷里の同期生にも声を掛け、同期会の継続と拡大を考えていきたい。



同期会とお寺

齊藤忠志(第9期)



関東在住の第九期卒業生の同期会を五月十日に開いた。会場は川崎市登戸の光明院。我々の同期に森(旧姓石井)興道君がおり、この光明院の住職を務めている。連絡の不徹底、忘却などによって当日は十名の出席だった。いつものように健康、病気が中心話題。だが大分あいまい、不正確な情報交換もあった。

光明院は真言宗豊山派寺院で大日如来坐像を本尊としている。川崎市重要歴史記念物として木造不動明王、二童子像を所蔵している。その他にも多くの芸術品・美術品が展示されている。写真の背景中央は三蔵法師がインドから經典を運ぶ姿を描いた図、両端は棟方志功の板画、いずれも本物である。その他浜田庄司、河井寛次郎、藤田喬平などの作品が展示してある。もちろんお寺であって、美術館ではないが希望であれば拝観・鑑賞は可能とのこと。われわれは仏さまにご利益をお願いし、芸術品で目の保養をして二、三年後の傘寿の会での再会を期した。

あしぎき会傘寿Ⅲを祝う会

畑中皓二(第5期)

平成二十七年八月十七日に「プラザホテルむつ」で二十名を集めて開催しました。

この会で会員全員が八十歳をこえました。開催は毎年八月十七日と決めています。この日程にして三回目ですが、毎回二十名前後が参加しています。

二十七年の会までは傘寿を目的に掲げてきましたが、次は東京オリンピックを目指して毎年開催します。東京オリンピックの次は米寿を：と望みを持って会員の健康長寿を目指します。

今年も八月十七日十七時三十分より「プラザホテルむつ」で「2016あしぎき会・夏の集い」を開催します。



十二期「釜臥会」

井出祥子(第12期)

五月三十一日、同窓会でお馴染みのグラントヒル市ヶ谷・翡翠の間で後期高齢者入りの十二期生が



札幌、むつ、仙台、九州から、そして50年ぶりの再会の一人を含め25名が集まりました。市ヶ谷の会場迄の不安

内の人もいるので迎えに行く人、入院中の友を見舞ってからの出席の人と、夕方5時からの開催時間はまだ明るく余裕の持てる開催でした。恒例の近況挨拶一分間スピーチでは、子供もすでに成長しているので、本人の健康の話が多く、こうして集まれるのは健康な証拠と感じます。翌日は、はとバスでコース名「東京スカイツリー半日ライナー」皇居国会、靖国神社、スカイツリー展望デッキ、銀座ドライブを修学旅行気分を楽しみ、東京駅構内の和食居酒屋でランチを、旅行バックを傍らに別れがたく、またまた続く話に歳月を経ても距離のない仲間になっっているのが嬉しいことでした。それぞれ帰路は新幹線、羽田にと。またね、有難う。喜びと心地よい疲れにも元気を頂いた仲間でした。

発行 青森県立大湊高等学校 東京同窓会
編集 立花善裕(19期)
題字デザイン 畑中皓二(5期)
事務局 〒三三〇一〇〇五
埼玉県さいたま市浦和区駒場 一五一一四
事務局長 三山 修(20期)
印刷 TEL 〇四八(八八)五三〇七
N's Digital Factory

むつの便りは「やなぎや」のお菓子で...



- 田名部ばやし
- おおみなと
- フライボール
- 寒立馬サブレ
- 他 銘菓各種

代表 柳谷 一雄 第5期生



緑町本店 むつ市緑町17-58 T.0175-28-2880
金谷店 むつ市金谷2-7-11 T.0175-23-6720
URL: http://o-yanagiya.jp

THE PLAZA HOTEL MUTSU

プラザ ホテル むつ

〒035-0061 青森県むつ市北町2-46(JR下北駅前)

TEL 0175-23-7111(代)
FAX 0175-23-7770

クラス会・同期会・親戚会等に

落ち着いたある和風ダイニング
と安らぎのある客室で……

JR下北駅より2分